



林道沿いに設置された大規模防護柵

「みんなが意識を高め、地域全体で取り組みを」

～被害を受けている農家の声～

永見山村づくり委員会
北原尚人さん



被害に遭った水田の水稲

何でも食べてしまうシカ

シカによる被害は、約10年ほど前から始まり、ここ数年は特に多くなりました。春から秋にかけてはいつでも来ていますね。早めになんとかしないと、今後この地域では農業ができなくなってしまうでしょう。

シカはどんな作物でもみんな食べてしまうんです。特に永見山では水稲とリンゴの被害が大きいです。水稲の場合は、田植えをした後に稲の葉をすべて食べてしまうんです。食べられた後は切り株のようになって、収量がかなり落ちてしまいます。

リンゴの場合は、背丈が届く範囲の下枝は全部食べられてしまいます。また、山では植林したヒノキの皮を全部食べて枯らしてしまいます。

対策をしてもなかなか防げない

防護柵や電気柵を設置すれば、大群がやって来ることは防ぐことができます。

ネットを張ると、最初はいくらか効果がありますが、慣れてくるとネットを食いちぎって中に入ってしまうんです。電気柵の方が効果がありますが、費用も掛かるし、草が伸びると漏電するため、草刈りなど管理をするのがたいへんです。

これだけ対策をしてもまだ来てしまうということは、何も対策をしなければどれだけ多くの被害に遭うか分からないですね。

地域全体での取り組みを

一つの地域で柵をつくっても、山はつながっているので違う場所から回り込んで入ってきてしまいます。広域的に設置しないと効果がないんです。

直接被害がない皆さんは意識が薄くなると思いますが、地域全体がまとまって取り組んでほしいですね。

新たな対策にも挑戦中

永見山地区では、柵などを張ることができない場所でも、シカなどの侵入を防ぐため、永見山から菅沼方面の林道へ向かう途中の道路に、グレーチングの設置と、白線の縞模様をつくりました。

この取り組みは信州大学農学部野生動物対策センターの協力によるもので、動物が足を踏み入れることをきらうことにより、そこから先への侵入を防ぐものです。

